

キューバで「良心の囚人」が釈放されました！



フリージャーナリストであり「良心の囚人」でもあるカリスト・ラモン・マルティネス・アリアスさんが4月9日に釈放されました。マルティネスさんは起訴のないまま、7カ月近く拘束されていました。マルティネスさんは「アムネスティの国際的なアクションが今回の釈放につながったと思う」とアムネスティに感謝の意を伝えてくれました。

マルティネスさんは4月9日の午後、首都ハバナ郊外のヴァレ・グランデ刑務所から釈放されました。彼はフリージャーナリストとしての活動の中で、起訴もされないまま2012年9月16日からずっと拘束されていました。

マルティネスさんは、自分自身の拘束に対して抗議の意を示すために2度、ハンガーストライキを行いました。2度目のストライキは3月8日に始まり、キューバ政府が釈放を約束するまで22日もの間、続きました。3月5日には、彼が拘束生活のほとんどを過ごしたコンビナド・デル・エステ刑務所からヴァレ・グランデ刑務所に移送されました。

マルティネスさんによれば、拘束後、弁護士を立てることはできたそうですが、事件の内容を知らされることはありませんでした。2012年にサンティアゴ・デ・ラス・ベガス警察署で逮捕されたときにその理由を尋ねると、警察は「単に命令に従っているだけだ」と答えました。

キューバの司法当局は、マルティネスさんの釈放については、予防的措置として採用されていた審理前拘束を解除したものであり、無条件の釈放であるとしています。

本件について、追加のアクションは必要ありません。多くの皆様のご協力に感謝いたします。

南アフリカでの殺人事件に、正義の裁きを！



この4月24日、南アフリカのヨハネスブルグでノクソロ・ノグワザさんが殺害されて2年が経ちました。ノクソロさんはヨハネスブルグ在住の黒人のレズビアンでした。

2011年4月24日未明、24歳のノクソロさんは友人と遊びに行った帰りに殺されました。彼女は強かんされ、何度も殴打された後に刺され、排水溝に捨てられていました。この事件は、彼女の性的指向を理由とした殺人と見られています。

この1年の間、アムネスティはノクソロさんの正義のためにキャンペーンを実施してきました。特に支部が地元に着して展開した運動は、地元の警察から州首相、そして国家警察署長への働きかけにまで広がり、大きな成果をもたらしました。

当日は、ノクソロさんもメンバーだったLGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー）の活動グループがクワテマで追悼イベントを開催しました。イベントでは、祈りと歌によってノクソロさんや、性差別犯罪によって同じように殺された人びとの死を悼みました。また多くの方が、LGBTの人びとへの攻撃を止め、権利を守るよう訴えました。アムネスティのメンバーもこれに参加し、イベントを盛り上げました。世界中のメンバーが送ったメッセージを色とりどりの風船につけて、空に飛ばしました。

キャンペーンにご参加くださった皆さん、ありがとうございました。

ドングリア・コンドの人びとへの更なる支援を！



インドの最高裁は4月18日、英国に本社を置くヴェダ
ンタ・リソーシズ社がオリッサ州ニヤムギリ丘陵で進めて
いるボーキサイトの採掘計画に関して、先住民族であるド
ングリア・コンドの人びとが最終決定権を持つ、という判
決を言い渡しました。ドングリア・コンドの人びとは、今
年7月18日までに計画の対象となる土地の取り扱いに関す
る意見を求められています。

この数年、総勢8000ものドングリア・コンドの人びとの
命と生活がこの採掘計画によって危機的な状況にさらされ
ていました。この判決は、数十年にわたる、地域住民と、
アムネスティを含むインド国内外の組織による運動が大き
く影響しており、インドの先住民族の人びとにとっても象
徴的な勝利だと言えます。

最高裁は「採掘されようとしている土地の計画がコミュ
ニティの宗教や文化の権利を侵害するのであれば、コミュ
ニティの議会は、誰からも影響を受けずに、独立して土地
返還の請求を行える」と判断しました。この内容がきちん
と実行されるまで、きちんと見届けることがとても重要で
す。このキャンペーンに参加して下さったすべての方々



に感謝を申し
上げます。引
き続き皆さん
のご支援をお
願いしま
す！！

緊急行動 ～グッドニュースとその後の進捗～

〔ウズベキスタン〕

作家のママダリ・マクムドフさんが4月19日、14年の
刑期を終えて釈放されました。獄中で彼は、残忍で、非人
道的、かつ屈辱的な扱いを受けていたといいます。釈放の
日、彼はウズベキスタンの首都タスケントの自宅に戻り、
初めて孫娘さんにも会うことができました。

今年4月8日、ママダリさんは刑務所の命令に背いたと
して、3年間の刑期延長の判決が下されました。その後、彼
は自分の病状が悪化しているとして釈放を求める嘆願書を
ウズベキスタン大統領に送りました。その結果、釈放が認
められたようです。

ママダリさんはその後の5月5日、「刑務所の規則に31
回も違反した」という起訴状を検察側が提出したと聞かされ
ました。それまでの間、彼は、自分が規則違反をしていた
という話を一度も聞かされていませんでした。彼は結核
を煩っており、高血圧の持病があり、4月には心臓発作も起
こし当時、家族はママダリさんが生きて刑務所から出られ
ないのではないかと心配していました。

アムネスティを含む国際的な団体組織はママダリさんの
健康状態への懸念を訴え、ウズベキスタン当局のほか、EU
や国連といった国際政府機関や、各国政府にも働きかけま
した。人権団体は、今回ママダリさんが早期に釈放された
のは、こういった国際的な圧力の高まりによるものと見て
います。アムネスティは今後もママダリさんの事件の進捗
を注視していく予定です。

UA ニュース

発行:アムネスティ・インターナショナル日本
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-12-14 晴花ビル 7F
TEL: 03-3518-6777 FAX: 03-3518-6778
E-mail: uaoffice@amnesty.or.jp

UA 年会費 3000 円
郵便振替 00120-9-133251
加入者名 公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本